

PICK UP

1 1年前イベントに 伊藤美誠選手が登場！



27年12月20日、「希望郷いわて国体・大会1年前イベント」を開催しました。卓球競技の会場となっている市総合体育館（Zアリーナ）に卓球世界ランキング11位の伊藤美誠選手を招き、トークショーと実技指導が行われました。伊藤選手が登場すると、会場は大興奮。約70人の小中学生が世界レベルの技術に刺激を受けました。選ばれた5人の参加者が伊藤選手と対戦する一幕もあり、伊藤選手から得点できた参加者は今後の練習の励みになったようです。イベントには県内各地から400人を超える人が来場し、国体本番に向かって気運の高まりをみんなが感じていました。

PICK UP

2 冬季大会&リハ大会 開催

希望郷いわて国体・大会の開幕前に各種大会を開催！こちらぜひ会場をご覧ください。

第71回国民体育大会冬季大会

スケート・アイスホッケー競技…1月27日(金)～31日(日)
スキー競技…2月20日(日)～23日(水)

盛岡市、花巻市、二戸市、八幡平市

全国障害者スポーツ大会リハーサル大会

6月4日(日) 市総合体育館（Zアリーナ）

馬術競技リハーサル大会

6月11日(日)・12日(月) 水沢競馬場

そして10月——
希望郷いわて国体・希望郷いわて大会が開幕する。

46年ぶりの、本県での国体。
選手が日頃の練習の成果を発揮できるよう、
そして訪れた人に「また来たい」と
思ってもらえるよう、
市は全力で準備を進めていく。

見て、参加して、伝える国体。
選手、観客、関係者すべてが

輝く瞬間を見逃すな！



ウエイトリフティング競技 内村 湧嬉 選手 (24)

Uchimura

Yuki



地元開催に期待 声援を力に表彰台へ

27年11月22日、江刺中央体育館で行われたウエイトリフティングのリハーサル大会。内村選手は62kg級でスナッチ111kg、クリーン&ジャーク143kgのトータル254kgを挙げ、優勝を果たした。自己ベストを超える150kgは失敗したもの、「肩の高さまでは軽く挙がった」と確かな手応えを感じる。普段は岩谷堂高校の「内村先生」。「生徒から「新聞で見たよ」と言われるとうれしいけれど照れくさい」と、競技中の力強い表情とは一転してはにかんだ笑顔を見せる。

昨年の紀の国わかやま国体では、選手に向けたメッセージやイラストが描かれた旗で歓迎を受けた。「奥州市のリハーサル大会でも、はっとのふるまいなど、ボランティアや地元の皆さんの協力のおかげで大会が支えられていると感じました」と感謝する。希望郷いわて国体の本番を前に「仲間が近くにいるので心強い。ウエイトの試合を見たことがない地元の皆さんにも競技を知ってもらい、応援してもらえたら」と地元開催に期待を寄せる。

いよいよ迎える希望郷いわて国体。「いちばん高い台に——とは簡単には言えないが、必ず表彰台に上がりたい」と、静かに闘志を燃やしている。

市民ボランティア 伊藤 由衣 さん (25)

Itou

Yui



地元企業として盛り上げ 奥州の魅力を発信したい

地域貢献の一環として、職場ぐるみで国体に参加している水沢信用金庫。金庫内で100人を超えるボランティアスタッフが登録し、リハーサル大会にも多数の職員が従事した。南支店で外回りの集金などを担当する伊藤由衣さんもその1人だ。

従事する競技は希望制。ボクシングの試合を見たことがなかった由衣さんは「どんな感じだろう」と興味がありボクシングを選んだ。「初めはただのリハーサルで、本当の大会だと思っていませんでした」とお茶目な笑顔で明かす。「地元の人も大勢来場していて、興味を持っている人が多いと感じました」と地元の盛り上がりを実感する。

大会では受付案内係に従事し、選手へのID配布や一般客の案内などを行った。県外から来た人がパンフレットを読んでいたり、おすすめの店を聞かれたりして、岩手を知ろうとしてくれていると感じてうれしかった。「本番ではもっと大勢の人が訪れるはず。観光地や飲食店など、奥州市の良さを発信できるようになりたい」と目を輝かせる。

お客様と接することの多い金融機関の業務。由衣さんは「仕事上でも国体をPRして、地元みんなで盛り上げたい」と、輝く笑顔で国体を応援する。

水沢江刺駅 五十嵐 恵一 駅長 (57)

Igarashi

Keiichi



奥州の玄関口 まちは改札口から始まる

新幹線から降りた乗客を、おもっの看板が出迎える。遠方から訪れる選手や観客は、この水沢江刺駅で初めて奥州市に降り立つ。「改札口からまちが始まっている」——そのまちを印象付ける駅の第一印象が大切だと語る五十嵐駅長。駅利用者を温かく迎えるため「花いっぱい運動などの活動を積極的に地域と連携して行っていきたい」と話す。

新幹線の運行は上下線共に約1時間に1本。国体のような全国規模の催しでは首都圏よりも遠方からの利用客も多く、1本の遅れが乗り継ぎに影響を与える。こまめな案内や声掛けで、利用客が予定の新幹線に乗り遅れないよう気を配る。「ウエイトリフティングのリハーサル大会の時、京都から日帰りで応援に駆け付けたお母さんがいた。何時に会場を出て、何時の新幹線に乗ればいいかを一緒に考えて案内し、予定通りに帰って行ったときの笑顔が忘れられない」と五十嵐駅長はほほ笑む。

奥州市の玄関口として選手や観客を迎え入れる同駅は、国体を契機にさらに安心、快適な駅を目指す。五十嵐駅長は「あいさつや声掛けなど、誰にでもできるおもてなしがある。その時だけでなく継続することが大事」と、市民にも協力を呼び掛ける。